

## ナラ枯れ被害木のホダ木等への利用に係る実証試験について③

### 1 はじめに

ナラ枯れ被害材の薪材利用の実証試験について、前回報告(令和2年12月22日付2020-19号)に続き、今回(令和3年1月13日)行った調査結果を報告します。

### 2 今回の取組について

令和2年12月9日に割材し、乾燥させていた検体(薪材36本と長さ約50cmに玉切った丸太2本)について、重量測定と幼虫等の捕獲数確認を行いました。

なお、検体のうち半分は重量変化の観察用とし、残りの半分はネットに包み、落下(死亡)した幼虫等の数を定期的に確認します。



【写真1】 検体の設置状況

### 3 設置1か月後の調査結果について

割材後1か月経過した薪材の重量は、約75%~86%、丸太は87%~98%となっており、細かく割材した薪材の方がより乾燥が進んでいました。

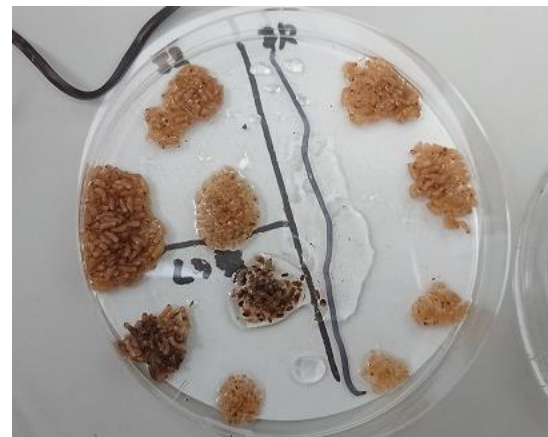
一方、薪材のネット内で捕獲された幼虫等の合計は、幼虫1,600匹、成虫11匹、卵10個(幼虫に付着)となり、相当の殺虫効果が認められました。

なお、この薪材は直径約30cm、長さ約50cmの丸太に相当するので、いかに多くのカシノナガキクイムシが被害木内で繁殖しているのか想像できます。

一方、丸太の捕獲数は幼虫4匹、成虫1匹となり、殺虫効果は期待できないようでした。



【写真2】 ネット内の落下幼虫等の状況



【写真3】 様々な大きさの落下幼虫等

### 4 今後の予定について

今後は約1か月毎に同じ調査を実施するとともに、2月と5月に新たな検体を追加して、割材時期の違いによる殺虫効果の違い等を確認する予定です。